



アサリ

ヤマトオサガニ



Q アマモ場とは？

A アマモは、水深1～数メートルの、波が静かな浅瀬の砂地などに生える海草（種子植物）で、栄養塩類を吸収したり、光合成により酸素を供給したりします。

海底一面にアマモが生えているところを

「アマモ場」と呼びます。アマモ場には魚、

貝、エビ・カニなどいろいろな種類の生き物が

すんでいるほか、アオリイカなど様々な魚の産卵場所や稚魚が育つ場所となる

ため、「海のゆりかご」とも呼ばれます。

千葉県の富津干潟や横須賀市の走水海岸に

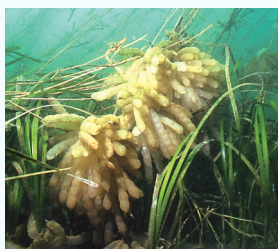
はまとまったアマモ場が見られますが、埋め

立てや水質汚濁により東京湾のアマモ場は

昔と比べ激減しました。近年、国や自治体、

NPO、企業など、多様な団体によりアマモ場

再生のための取組が行われています。



アオリイカの卵



タツノオトシゴ

とうきょう わん

東京湾のいきもの

◎東京湾でよく見る鳥（とうきょうわんでよくみるとり）

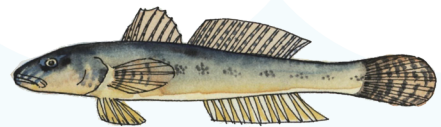
カワウ



いちねんとおみみずもくさかなと
一年を通して見られる。水に潜って魚を捕る。

◎東京湾でよく見る魚（とうきょうわんでよくみるさかな）

マハゼ



はるさきちしぎよかこうふきんひがたあらわせいちょう
春先稚仔魚が、河口付近の干潟に現れ、成長する

につれて、いろいろなところへ散らばっていく。河

口や内湾でU字型の深い穴を掘って産卵する。

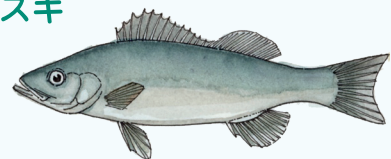
ボラ



かせんかりゅうぶないわんひろふんぶそこゆうき
河川の下流部～内湾に広く分布する。ドロ底の有機

物などを食べる。

スズキ



かせんかりゅうぶないわんひろふんぶとうきょうわんだいひょう
河川の下流部～内湾に広く分布する東京湾を代表す

る魚。河口の干潟などでは、春先、数cmの稚魚がた

くさん現れる。出世魚でセイゴ、フッコ、スズキと大き

さで呼び名が変わる。

